第３回　全国福祉経営研究交流会 in 九州・沖縄　アピール

私たちは、2025 年 12 月 4 日・5 日、全国交流会テーマに「いまこそ人権・平和を守る社会福祉の実現を」を掲げ、第 3 回全国福祉経営研究交流会 in 九州・沖縄を福岡県久留米市で開催しました。現地・リモートを含め全国から 360 名を超える仲間があつまり、２日間にわたり開催することができました。

実行委員会には、九州・沖縄から約 25 名、全国からは 30 名を超えるなかまがあつまり、2024 年 5 月からオンラインで学習と交流を重ねながら準備を行ってきました。実行員会発足当初の実行委員長は、社会福祉法人麦の芽福祉会前理事長の故内田芳夫さんでした。鹿児島以外の少なくない実行委員は、内田さんに直接お会いできたのが 2024 年 12 月 5 日・6 日のプレ全国交流会でしたが、それが最初で最後となってしまったのが悔やまれます。分け隔てなく包み込むような優しいまなざしと語り口調で接してくださるお姿に、元気をいただいたことが思い出されます。心よりご冥福をお祈り申し上げます。そして、私たちは内田さんの遺志を継ぎ実行委員長を引き受けていただいた鹿児島大学の伊藤周平さんと共に、分野を超えた共同の取り組みをとおして、人権と平和を守る社会福祉の実現に向けた大きなつながりを生み出せたことに、九州・沖縄での開催意義があったと確信しています。その一つに、2025 年 10 月 24 日に沖縄で初めて開催した沖縄地域懇談会があります。私たちは、そこで国が台湾有事を想定した沖縄・南西諸島の軍事要塞化を強行に推し進め、沖縄の人々の命と尊厳が脅かされているという生々しい実態を知りました。そして、沖縄の方々との対話をとおして共感が生まれ、お互いの信頼へと変わっていくことを実感しました。30 年間続いた東海近畿の分野を超えた交流の取り組みが兵庫へ、そして関東から九州・沖縄へとバトンが渡され、中国・四国へとつなぎます。そのバトンのつながりこそが対話と共感と信頼であり、さらに全国にひろがっていくことに大きな希望を感じます。

360 名を超えるみなさんとつながり、学んだ 2 日間を振り返ると、分野別報告では、3 分野で起きている実態から共通する制度的な課題が明らかにされ、基調講演では、介護保険と障がい者福祉の現状から市場万能主義や競争主義による課題と、障がい者や高齢者の尊厳をないがしろにする思想にどう対峙し、克服していくかを学び深めました。7 つの分科会では、大変な福祉経営での悩みなどが赤裸々に報告され、参加者と討議し交流しました。記念講演では、沖縄の夜の仕事をしているシングルマザーの若い女性たちがおかれている現状は、長い間、日本が放置している女性や沖縄の問題であることを考えさせられました。

2025 年 10 月 22 日に発足した、戦後最悪の反動政権とも言われている高市政権は、戦後の内閣が国会の場で言明しなかった、台湾有事を日本の「存立危機事態」と判断すると発言し、国家間の緊張感を高めています。さらに、軍事費の GDP 比 2%への引き上げの前倒しと３%への意欲を示すなど、これまでにない大軍拡路線への危険性をはらんでいます。このように日本国憲法をさらに骨抜きにし、新たな戦前を迎える準備を大胆に進め、戦争と対極にある社会福祉がますます切り捨てられていることに、私たち社会福祉に携わる者として声をあげることが求められています。

そのために、いまこそ人権・平和を守る社会福祉の実現に向けて「第 3 回全国福祉経営研究交流会 in 九州・沖縄」の参加者全員が、それぞれの職場や地域で対話をとおして共感をうみ、草の根から信頼関係をひろげる努力をつづけていきましょう。みなさまの一歩一歩が大きな力になります。

以上、第 3 回全国福祉経営研究交流会 in 九州・沖縄のアピールとします。

２０２５年１２月５日

第 3 回全国福祉経営研究交流会　実行委員会一同